

選挙ポスターを構成する色（東京と大阪の事例）

Colors of Posters Based on the General Election (Case Study of TOKYO and OSAKA)

大野 治 代
Haruyo OHNO

I. はじめに

視覚情報の表示には、様々な方法がある。これらの中で、野外における視覚表示機能を有するものは、信号、標識、ポスター、広告、看板など多種多様である。本報では、これら視覚表示の中で、ポスターの色の使われ方について検討する。ポスターは、静的な視覚表示として、古くから最も簡単な情報伝達手段として、商業的、公共的、政治的に利用されてきた。ここでは、目的が明確である選挙ポスターに焦点を絞ることにし、第39回衆議院総選挙立候補者の中で、東京都と大阪府の立候補者のポスターに使用された色の実態調査の結果に考察を加えることにする。

II. 調査概要

- 1) 調査期間 第39回衆議院総選挙期間中の1990年2月3日～2月18日迄の16日間である。
- 2) 調査対象 調査の対象としたのは東京都と大阪府の全立候補者のポスターである。

掲示板周辺の明るさについては、撮影場所の鉛直面照度を測定することにした。ポスターの色は、写真撮影（カラーズライド）した結果より分類したが、選挙ポスターの写真撮影には、日本色研製の10色相（R, YR, Y, GY, G, BG, B, PB, P, RP）とN1, N5, N9の計13枚の視角2度（1m前方）の色票を同時に撮影してある。撮影したフィルムは同一会社製とし、撮影時には掲示面に直射日光が当たっていないことを確認した。フィルムの現像は、ほぼ同じ日にまとめて同一現像所で行った。ポスターに使用された色相分類は、スライド映画画面の視感測色によるものである。

III. 結果及び考察

1) 資料の回収状況

第39回衆議院総選挙は、選挙区が130区、立候補者が953人で、その内訳は表-1に示す通りである。ここで、検討対象とした東京都と大阪府の選挙区の回収率は、いずれも100%であったが、立候補者のそれは前者が77.2%、後者が95.3%であった。東京都の立候補者の中に相当数の人が、ポスターを掲示してないことが知られる。

選挙ポスターを構成する色（東京と大阪の事例）

表1 日本全国の地域別の選挙区と立候補者の数

地 域	選挙区	立候補者	都道府県名
北海道	5	35	北海道
東 北	13	93	青森、秋田、岩手、宮城、山形、福島
中 部	12	76	新潟、長野、山梨、静岡
近 畿	11	79	滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山
中 国	9	61	広島、岡山、島根、鳥取、山口
四 国	7	49	香川、徳島、高知、愛媛
九 州	18	121	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄
関 東	22	167	茨城、栃木、群馬、千葉、埼玉、神奈川
東 京	11	127	東京
北 陸	5	29	富山、石川、福井
東 海	10	73	愛知、岐阜、三重
大 阪	7	43	大阪
合 計	130	953	

2) 掲示板周辺の明るさ

選挙期間中は、太陽高度の低い時期だったので、撮影した時間帯は大体8時30分～16時30分の間である。撮影した日は両地域とも晴れており、太陽高度が上るに伴い照度はかなり上下に変化していた。撮影した時には、掲示板に直射日光は当たっていなかったが、晴れた日の昼光の変動は激しく、これらを既存の測定値¹⁾である太陽高度に対応する天気別の全天空水平面照度と比較すると、照度の変化幅はほぼ同じ傾向を示していることが確かめられた。

3) ポスターの表示面の構成

公職選挙法²⁾では、選挙用掲示板の各立候補者のため区画は42cm以上とすること、ポスターの大きさはタブロイド型（長さ42cm×幅30cm）を超えないこと、選挙ポスターは、大きさと掲示場所の規定の他には掲示責任者と印刷所の住所氏名を記入することを定めている。調査した立候補者のポスターは、幅に若干差異が見られたが、ほぼ規定の大きさの範囲にあった。

① 顔の表示面積 ポスターの中の顔表示は、東京都の1事例と大阪府の3事例を除いて、全部に見られた。図1は、顔表示部分のポスター全表面に占める面積割合の累積相対度数分布を示している。これより、ポスター全体の60%が、分布曲線では20%～80%値の間で大阪の顔表示面積が東京より2割多いことより、大阪の方が東京より顔の面積の大きいことが知られる。同図に、当選者のみについての結果も表してある。また、表2は、図1より大阪と東京の立候補者全員と当選者の顔表示部分のポスター全表面に占める面積割合を累積相対度数分布から読み取ったものである。これより、分布曲線の0%～20%値の顔表示

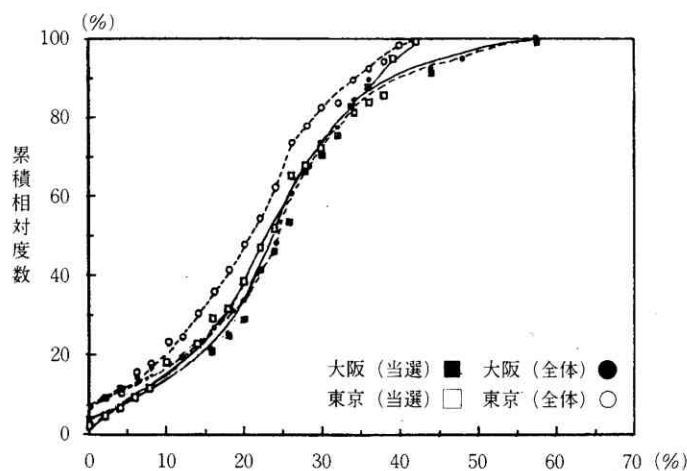


図1 顔の表示部分のポスター全体に占める割合の累積相対度数

累積相対度数	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
大阪	全員	—	3.5	12.0	18.0	22.0	24.5	26.0	28.5	32.5	38.0	58.0
	当選者	—	5.0	14.0	19.5	22.0	24.0	26.0	30.0	34.0	41.5	58.0
東京	全員	—	3.5	10.0	14.0	17.0	21.0	23.5	25.5	29.0	34.0	42.0
	当選者	—	6.5	12.5	17.5	21.0	23.5	26.0	29.0	34.0	38.0	42.0

の少ない面積と、80%～100%値の顔表示の大きい部分とに多少の違いはあるけれども、全体の6割は大阪と東京の顔表示面積の分布に差異の僅かなことが知られる。これより、大阪のポスターにおける顔の表示面積の分布は、全立候補者と当選者共にほぼ同じであり、東京の当選者は全立候補者よりやや広い顔表示となって、大阪と同じ傾向にあるといえる。

② 身体全体の面積 図2に、身体全体の表示面積のポスター全表面に占める面積割合の累積相対度数分布を示している。これより、両地域の差異は認めがたいが、表示面積の範囲は広く、ポスター全体の6割を占めるものもあることが知られる。同図に、当選者のみの結果も表示しているが、全体の分布傾向に差異は見られない。

③ 名前の面積 図3は、名前の表示面積がポスター全表面に占める割合の累積相対度数分布を示している。これより、分布の10%～90%値にかけて大阪の名前表示面積が東京より2～3割広いものがポスター全体の80%を占めていることより、全体に大阪の方が東京より名前表示面積の広いことが知られる。これを、当選者のみについて表したのも図3に示してある。この結果より、表示面積が全体に2%～3%増加しているといえるが、ポスター全体の場合とほぼ同じ傾向を両地域が示している。

選挙ポスターを構成する色（東京と大阪の事例）

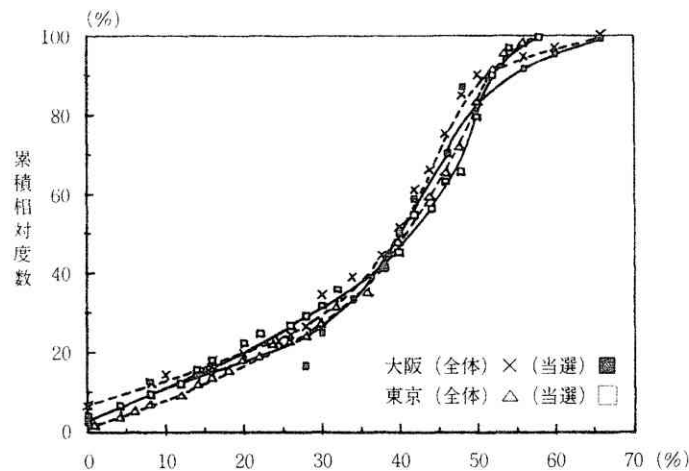


図2 身体の表示部分のポスター全体に占める割合の累積相対度数

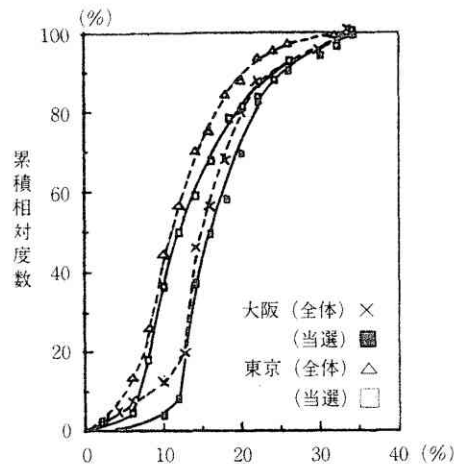


図3 名前の表示部分のポスター全体に占める割合の累積相対度数

4) ポスターの色の使われ方

各ポスターに使われた色を有彩色10色相 (R, YR, Y, GY, G, BG, B, PB, P, RP) と無彩色3段階 (白, 灰, 黒) の計13に分類し、配色について検討することにした。

① 配色数 図4に大阪と東京における選挙立候補者の選挙ポスターに使用された配色数の割合の累積相対度数分布と相対度数を示す。ここで調べた配色数は、洋服に使われた色は除外し、ポスターの中の名前、党名、スローガン等とその背景に使用された色のみを対象としている。ここにあげた両地域では、文字のみの選挙ポスターは、大阪3事例、東京1事例で、他全部に顔写真 (イラストも含む) が使われていた。

両地域のポスターに使われた色相の数の相対度数をみると、大阪の1位は4色で34%、2位が5色で26%、3位が4色で22%、4位が6色で9%を示し、東京では1位が5色と3色で各27.3%、3位が4色で23%、4位が6色で15%を示している。全体の中央値は、

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第10号（1990年）

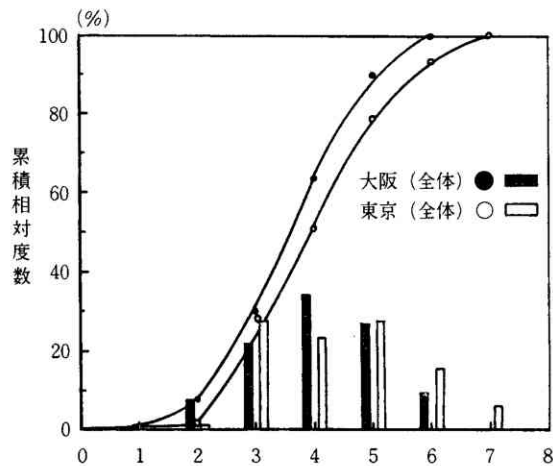


図4 立候補者の配色数の累積相対度数と相対度数

東京が4色、大阪が3.6色である。図5に、当選者の結果を示す。大阪は、3色、4色、5色が同じ25%を示し、全体の75%を占める。東京は、5色が35%、4色が22%、3色が18%の順に使用されていることにより、配色数は東京の方が大阪よりやや多いといえる。

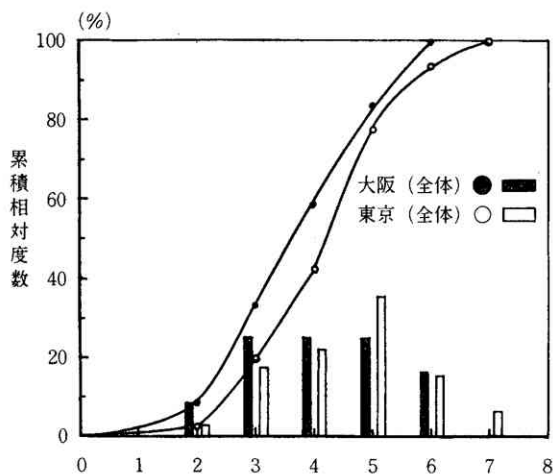


図5 当選者の配色数の累積相対度数と相対度数

② 配色 使用された色の相対度数を求め、大阪と東京に分けて表したのが図-6である。1位は白の91%、2位はRの90%~88%と両地域とも同じである。大阪での3位はYの56%、4位はBの49%、5位はPBの46%、6位は黒の36%の使用実態である。東京での3位は黒の56%、4位はPBの54%、5位はBの39%、6位はYの33%の使用実態である。これを当選者のみに限って表示したのが、図7である。両地域の使用割合に若干の差異は見られるが、使用される順位は同じである。これより、大阪では白、赤、黄、青、青紫の順で、東京では白、赤、黒、青紫、青の順で多く使用されているといえる。

選挙ポスターを構成する色（東京と大阪の事例）

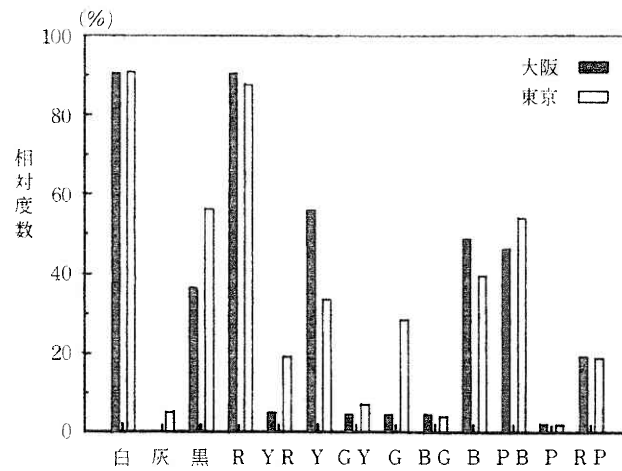


図6 立候補者の色の使用実態の相対度数

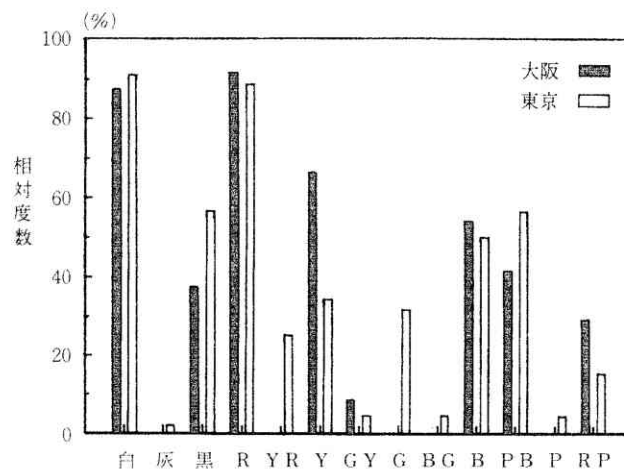


図7 当選者の色の使用実態の相対度数

③ 各色の表示面占有割合 ポスターに使われる各色が、紙面全体に占める割合の累積相対度数と相対度数を、大阪と東京について表したのが図8～図13である。

(1) 白 図8は、ポスターの中の白の使用割合を示している。この色は、相対度数の分布も平均し、分布曲線の8割である10%～90%値が数%から50%と広く分布していることに両地域の差異はそれほど認められない。

(2) 赤 図9は、ポスターの中の赤の使用割合を示している。大阪では、赤の使用割合の8割が紙面全体の3%～36%である。東京でのそれは、紙面全体の1%～25%である。また、累積相対度数を一定とした場合には、大阪での全体に占める割合が東京より5割強を占め、赤の使用面積割合の多いことが知られる。

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第10号（1990年）

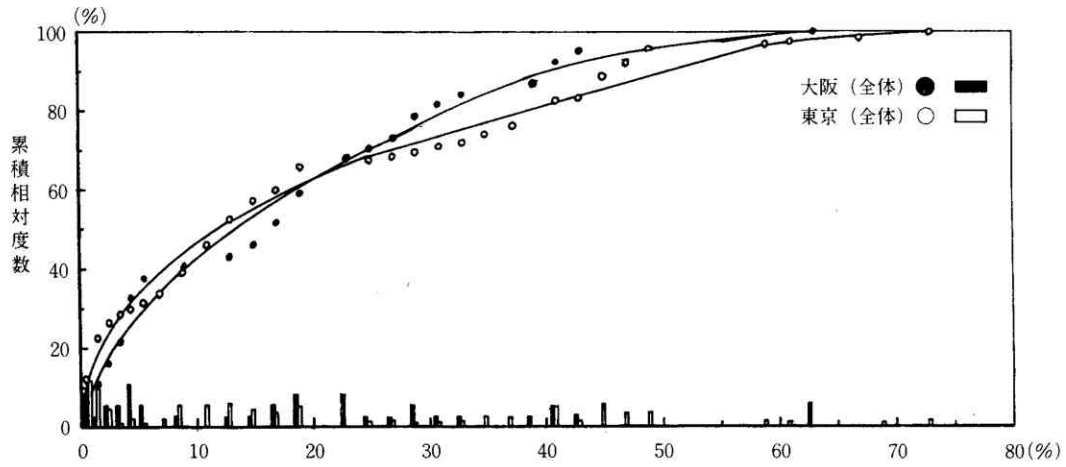


図8 白のポスター全体に占める割合の累積相対度数と相対度数

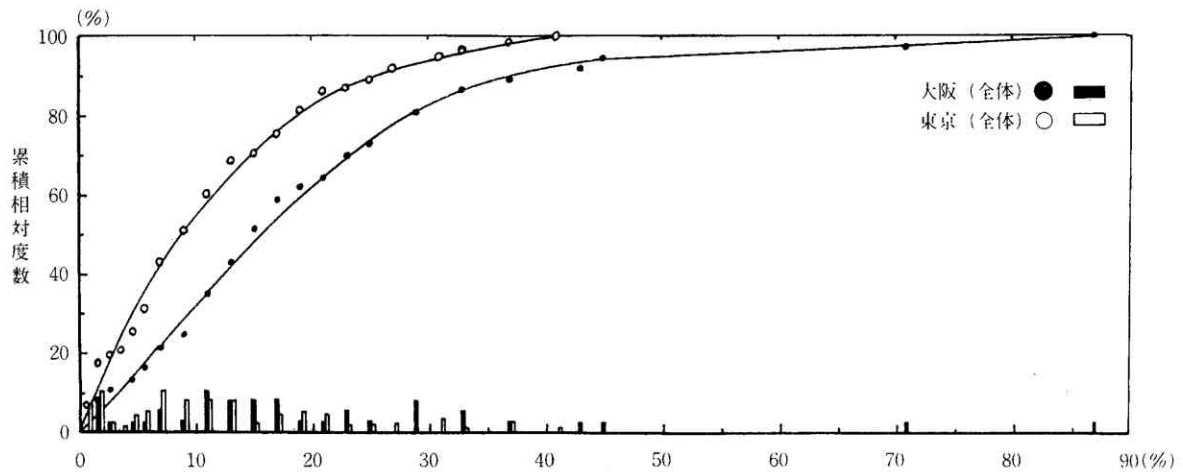


図9 赤のポスター全体に占める割合の累積相対度数と相対度数

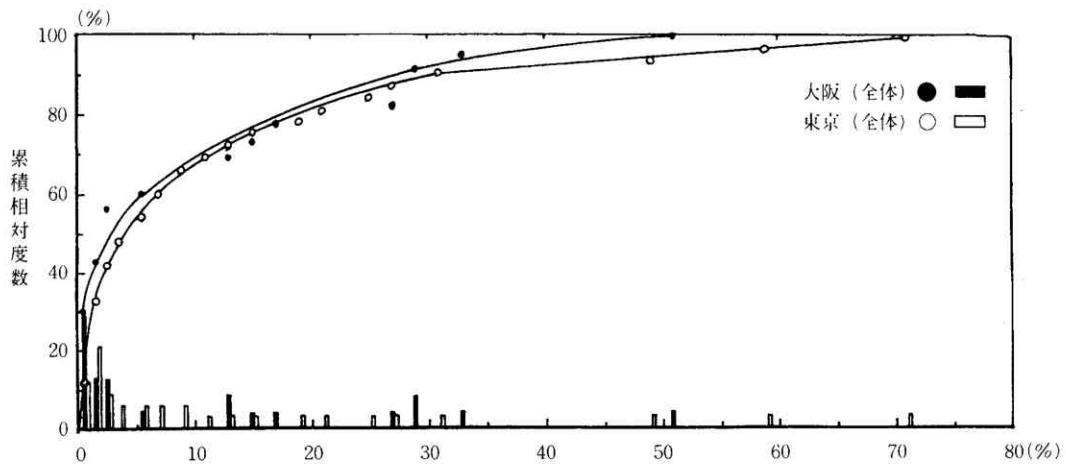


図10 黄のポスター全体に占める割合の累積相対度数と相対度数

選挙ポスターを構成する色（東京と大阪の事例）

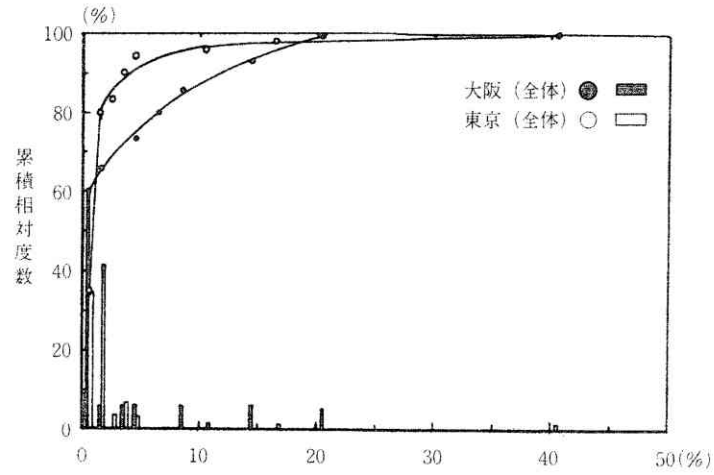


図11 黒のポスター全体に占める割合の累積相対度数と相対度数

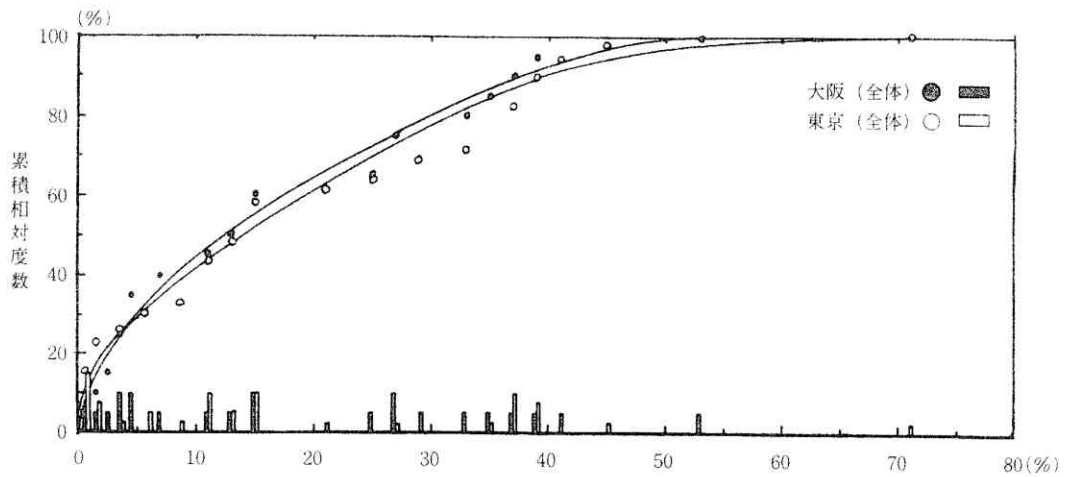


図12 青のポスター全体に占める割合の累積相対度数と相対度数

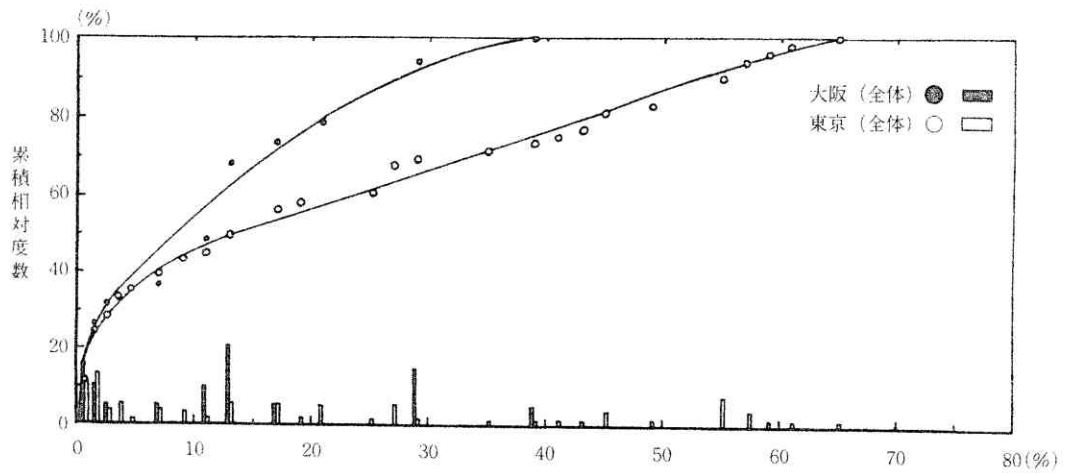


図13 青紫のポスター全体に占める割合の累積相対度数と相対度数

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第10号（1990年）

(3)黄 図10は、ポスターの中の黄の使用割合を示している。この色は、全体の8割が1%から19%の紙面を占めているが、5割までが3%以内の紙面占有率にあり、紙面全体に占める割合は低いといえる。この傾向に両地域の差異は認められない。

(4)黒 図11は、ポスターの中の黒の使用割合を示している。大阪は全体の7割が、東京では全体の8割までが2%以内の紙面占有率であり、表示面全体に占める割合はごく少ない場合の多いことを示している。

(5)青 図12は、ポスターの中の青の使用割合を示している。大阪では、青の使用割合の90%が紙面全体の1.5%～37%である。東京でのそれは、紙面全体の0.5%～39%である。両地域の差異は余り認められない。

(6)青紫 図13は、ポスターの中の青紫の使用割合を示している。大阪では、青紫の使用割合の90%が紙面全体の0.5%～26%である。東京でのそれは、紙面全体の0.5%～53%である。相対度数の50%値以上で東京が大阪より1.6から2倍近く紙面を占有していることより、青紫は東京で使用されることの多いことを表しているといえる。

また、表3に(1)から(6)の各色の表示面積の累積相対度数に対応する値を示している。これより、黒は使用されても60%値までは、紙面の1%程度であること、次いで黄のそれは5～7%であることが知られる。

これらの選挙ポスターに使用される色は、立候補した選挙区の印刷所に左右されるのではないかと、撮影しながら調べた範囲では、大阪選挙区のポスターでも、かなりの数が東京で印刷されていた。従って、選挙ポスターの色は、各立候補者自身及び関係者が各地域特性をある程度考慮して決定しているのではないかと考えられる。

表3 累積相対度数に対応する各色の表示面積の割合 (%)

累積相対度数	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
大阪	R	0	3.0	6.0	9.0	13.0	15.5	19.0	23.0	28.0	37.0	87.0
	白	0	1.0	3.0	5.5	9.0	13.5	18.0	23.0	31.0	39.0	63.0
	Y	0	0.3	0.4	0.5	1.0	3.0	5.5	10.0	16.5	27.0	51.0
	黒	0	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	2.4	6.2	12.0	23.0
	PB	0	0.5	1.0	2.5	5.0	8.0	12.0	16.0	21.0	26.0	39.0
	B	0	1.5	3.0	5.0	7.0	11.0	15.5	22.0	29.0	37.0	53.0
東京	R	0	1.5	3.0	4.5	6.5	9.0	11.0	14.5	18.0	25.0	41.0
	白	0	0.3	1.5	3.5	7.0	12.0	18.0	26.0	37.0	49.0	73.0
	Y	0	0.3	0.5	1.5	2.0	4.0	7.0	11.5	19.0	30.0	71.0
	黒	0	0.2	0.4	0.6	0.7	0.9	1.2	1.5	2.1	3.5	27.0
	PB	0	0.5	1.0	3.0	6.5	13.5	23.0	34.0	43.0	53.0	65.0
	B	0	0.5	2.0	5.0	9.0	14.0	20.0	26.0	33.0	39.0	71.0

選挙ポスターを構成する色（東京と大阪の事例）

IV. まとめ

- ① 顔の表示面積の紙面全体に占める割合は、大阪のポスターの方が東京より2割多い。しかし、東京の当選者は大阪とほぼ同じ占有率を示し、中央値は25%を示している。
- ② 身体全体では、大阪と東京に殆ど差はなく、身体表示面積の紙面全体に占める割合の中央値は40%を示している。
- ③ 名前の表示面積の紙面全体に占める割合は、大阪のポスターの方が東京より2～3割多く、中央値は大阪が14%を、東京が11%を示している。
- ④ 大阪の配色数は多くて6色、東京のそれは7色である。中央値を見ると大阪が3.6色、東京が4色を示していることより、東京の配色数がやや多いといえる。
- ⑤ 使用頻度の多い色は、白と赤が共通している。次いで大阪は黄、青、青紫、東京は青紫、黒、青の順である。
- ⑥ 黒と黄は使用される表示面積は少なく、使用頻度分布の6割は前者が1%以内、後者が7%以内である。

V. 今後の問題

ここに報告したのは、東京と大阪の2地域のみについての結果なので、使用される配色数及び色相については他の地域の結果とも対照することにより、全体の傾向を把握する必要がある。また、選挙ポスターに使われている配色の特徴やその見え方などについても検討すべき課題であると考えている。最後に、写真撮影に協力していただいた方々に深甚なる謝意を表します。

〔参考文献〕

- 1) 大野、伊藤：天空輝度の設計用標準値に関する研究、日本建築学会論文報告集、第215号（1974）51
- 2) 公職選挙法第144条：六法全書（平成2年版）106、有斐閣